

# MONEY

「安心の設計 MONEY」は第2、第4水曜日の掲載です。「シニア+」では、高齢期の暮らしに関わるお金の話題について、わかりやすく紹介します。

◆犬と猫を1年間飼育した場合の平均費用(2022年)  
アニコムホールディングスの調査より

犬	35万7353円
支出が多い項目	
①ケガや病気の治療費	6万7367円
②フード・おやつ	6万6066円
③シャンプー・カット・トリミング料	4万7273円
猫	16万766円
①フード・おやつ	4万9103円
②ケガや病気の治療費	3万1138円
③ペット保険料	2万7385円

は、犬が平均35万7353円、猫が同16万766円だった。コロナ禍前の19年は、

店で購入する②動物愛護団  
体から譲り受ける③家族や

用する...  
のうちの②では、希望者の適  
性や動物との相性を見極め  
ることが多い。希望者が先  
に亡くなる事態を避けるた  
め、最初からシニアの申し  
込みを断る団体もある。  
これに対し、一般社団法人「動物共生推進事業」(千葉県流山市)には、譲渡した犬や猫を飼い主が世話し続けられなくなった場合、再び引き取る「飼育保証制

の確認や給餌を行  
ら散歩もさせる。飼い主は  
自由に面会でき、再び引き  
取ることも可能だ。  
利用料は、ペットの大き  
さや種類の違いで異なる。  
体重6kgまでの小型犬な  
ら、最初に入居一時金42万  
9000円と同額の飼育費  
(6か月分)がかかる。契  
約は半年更新で、その都度、  
飼育費が必要になる。

## 動物型ロボット 手軽さ魅力

動物の鳴き声やしぐさを  
まねるロボットも、癒やし  
を求めるシニア層に人気  
が高い。高齢者自身が体調  
不良などで世話ができなくな  
っても心配する必要がない  
からだ。  
(長原和磨)



「なでなでね」ちゃんEXに癒やされる小宮さん(1月18日、川崎市で)

「ニャー」「ミャーオ」  
ロボット製作会社「トレン  
ドマスター」(川崎市)の「な

でなでね」ちゃんEXは頭  
をなでると愛らしい鳴き声  
を、尾を握ると低いうなり声  
を、本物の猫のように出す。

頭や尾など計4か所にセン  
サーを内蔵し、人が触れると  
感知する。なでる部位や触れ  
方の違いで計28種類の鳴き声  
を鳴き分ける。

自身も猫を飼っている中田  
敦社長(65)が、約10年前に開  
発した。販売開始後、老衰な  
どで飼い猫を失った高齢者の  
購入例が相次ぎ、現在はシニ  
ア向け商品として通信販売し  
ている。三毛猫など猫型が5

種類あり、犬型も2種ある。

猫型は1台1万6280円  
(税込み)。「餌代」は単4  
電池2本の購入費のみだ。数  
年前から自宅で使う川崎市の

小宮晶子さん(71)は、「トイ  
レを世話する必要がない手軽  
さが魅力」と話す。東京都新  
宿区の女性(74)は無類の猫好  
きで、昨年以降、2台買った。  
日中、笑顔で話しかけ、夜間  
は寝室に連れて行く。「人生  
に張りができた」と喜ぶ。

同社に限らず、各メーカー  
がシニア層向けに動物型ロボ  
ットを販売。価格は数千〜数

### 本物並みに反応 最後は寄付も

十万円と幅広い。

ソニーグループは今年、同  
社の大型ロボット・aibo  
(アイボ)を、何らかの理由  
で所有し続けることができな  
いユーザーに寄付してもら  
い、医療施設などに有償提供  
する仕組みを導入した。既に  
寄付については第1弾を締め  
切っており、2次提供先の募  
集を開始した。

同社広報によると、「病氣  
や介護施設への入居などで一  
緒に住めなくなった所有者か  
ら、相談が寄せられていた」と  
いう。2018年以降に発  
売された2万台以上を対象と  
しており、寄付されたアイボ  
についてはメンテナンスす  
る。